道徳取り組み月間

令和２年１２月２５日
文京区立金富小学校
校長　　山田　晴康
道徳担当　高橋　英子
　　青木　大輔

朝晩が冷え込み、本格的な冬を迎えました。子どもたちは、寒さに負けず、元気に過ごしています。休み時間に、日が当たる第２校庭で縄跳びやボール遊びに夢中になる子どもたちを見ていると、体を動かすことで、気持ちがすっきりし、次の学習の活力になっていると感じます。

さて、１１月は例年ですと、道徳地区公開講座が行われる予定の月でした。コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度の道徳地区公開講座は中止となり、土曜授業公開時に道徳の授業を一部の保護者の方々に見ていただくだけとなりました。そこで、１１月の１ヶ月間、「道徳取り組み月間」とし、教職員で、道徳の授業の研究を行った成果をこちらでお伝えしたいと思います。同じテーマや教材を取り上げる場合でも、児童の実態やクラスの雰囲気に合わせて、アプローチの仕方や手立てを工夫しました。教職員同士が、事前に授業について検討したことで、子どもたちから、よりねらいに近づく活発な意見が出されました。授業後は、教職員で成果と課題についても話し合いました。今後の授業に生かしていきたいと思います。

学年	組	主題・内容項目・資料名	工夫したこと	児童の様子
1	1	いつもありがとう 感謝 光村図書 「ありがとうが　いっぱい」	勤労感謝の日に取り組んだことや、学校で行った勤労感謝集会と関連付けた。ありがとうの気持ちを言葉だけでなく、行動でも伝えるにはどうしたらいいか考えさせた。	ありがとうを伝えたい人は、身近にたくさんいることに気付いた。そして、感謝の気持ちを言葉だけでなく、お手伝いをしたりして表すこともできると考えを深めることができた。
	2	ともだちの　ことを　かんがえて 友情、信頼 光村図書　「二わの　ことり」	友達にしてもらって嬉しかったことを見付けさせ、友達と仲良くすること、助け合うことの考えを深めた。役割演技を取り入れることで、自分と友達の気持ちを考えることができるようにした。	友達の気持ちを考え、さみしかったり悲しかったりする友達に寄り添う気持ちの大切さに気が付くことができた。
	3	あいさつを　きちんと 礼儀 光村図書 「わすれて　いること、なあい」	お話のそれぞれの場面で、役割演技（登場人物になりきって演じてみること）を通して、その場の様子や気持ちをより深く考え、道徳的価値に気付かせるようにした。	「(あいさつ) をしなくたって、いいのでは？」という発問に対して、多くの意見が出され、『相手のことを考えるからこそのあいさつ』という観点にも気付くことができた。

2	1	よかったよ 友情、信頼 光村図書「よかったよ」	実生活での出来事を振り返ることを通して、友達とはどんなものなのかを考えた。他の友達の意見を聞くことで、これからの友達とのかかわり方について考えることをねらいとした。	友達に優しく接し、困っている友達がいたら助け合っていきたいという思いをもつことができた。
	2	ありがとうの気持ちをもって 感謝 光村図書「ありがとうの絵」	注意をされて、もやもやした気持ちになったことについて考えた。「分かっているのに言われていやだった」「ちょっと強く言い過ぎたかな」など嫌だという思いと反省や前向きな気持ちに分けて板書した。そして、その意図を子どもたちに考えさせるようにしてねらいにせまるようにした。	子どもたちにとって「ありがとう」というのは、何かをしてもらってうれしいときに使うという印象がある。叱られたときに「ありがとう」と思う子は、最初ほとんどいなかった。しかし、注意する人も相手のことを思って言っているのだから素直に聞かなくてはいけないことや注意をするときにも相手に伝わるように言わなくてはいけないことを学ぶことができた。
	3	よかったよ 友情、信頼 光村図書「よかったよ」	実生活であった経験を振り返り、友情について考えた。グループワークを取り入れ、友達の色々な考えを聞くことで、友達との関わりに対して考えを深めた。	登場人物と同様の経験をしたことがある児童が多く、友達とけんかをしてしまったときは、すぐに謝り気持ちよく生活していきたいという考えをもった。
3	1	こまっている人がいたら 親切,思いやり 光村図書 「みんながくらしやすい町」	児童の身近な家→教室→町の順にくらしやすさについて考え、価値項目を自分事として捉えられるようにした。後半は、グループワークを取り入れ、様々な考えを受け止めながらも、本当に大切なことは、どんなことであるのか気付かせるようにした。	くらしやすい町について考える中で、くらしやすさとは物の豊かさではなく、人の気持ちや行動であることに気付き、自身も生活の中で、周りの人への思いやりのある行動をしていきたいという気持ちになった児童が多かった。
	2	友達と助け合って 友情、信頼 光村図書「目の前は青空」	友達との関わり方や協力することについて考えた。登場人物それぞれの気持ちを想像することで、どの立場でも協力することや助け合うことの気持ちよさについて感じられるようにした。最後はワークシートで、これからの友達とのかかわりについて書くことで、考えを深めた。	友達への思いやりのある声掛けを自分がしても、友達からされても、どちらも気持ちがいいということを経験から改めて感じている児童が多かった。今後の声掛けの仕方や関わり方に生かしたいと考えることができていた。

4	1	周りの人にありがとう 感謝 光村図書「朝がくると」	生活を支えてくれる人々に伝えたいことについて考えた。教科書に書かれていたキーワードを空欄にし、自分で作っていないものがたくさんあることに気付くように促した。後半は、警察官、消防士、医者などの生活を支えてくれる人たちの様子がわかる写真を添付したワークシートを使って、どのような思いで仕事をしているかについて考えを深めた。	自分では気付いていないところで、沢山の人が生活を支えてくれていることに驚きを感じている児童が多かった。警察官や医者など、安心・安全を守っている人たちに感謝の気持ちをもつことができていた。
	2	周りの人にありがとう 感謝 光村図書「朝がくると」	スーパーで働く方や公共交通機関の運転手など、自分の生活を便利にする仕事をしている人々について考えた。それぞれの仕事の内容を確かめながら、他にも警察・消防など自分の生活を支える仕事があることにも気付かせるようにした。最後はワークシートで、身近で生活を支えてくれる人々への感謝の気持ちについて考えを深めた。	身近で自分の生活を支えてくれる人々がいなくなった時を想像し、どれだけ大事で便利にしてくれているかを感じていた。また、スーパーやバスなど毎日の生活の中で多くの人たちに関わっていることに改めて気付き、感謝の気持ちをもつことができた。
	3	周りの人にありがとう 感謝 光村図書「朝がくると」	農業に携わる人やそれを運ぶ大型トラック運転手の方、車が走る道路整備員の方などの仕事について考えた。普段何気なく手にしたり、使ったり、食べたりしている物が、自分たちの知らないところで、様々な方が支えてくださっていることに気付かせるよう手立てを考えた。まとめの時間には、身近な場所でなくても生活を支えてくれる人々への感謝のメッセージを書き、交流する時間を設け、互いの考えを共有した。	あまり身近ではないが、確かに自分たちの生活を支えてくれている方々の存在に気付き、感謝の気持ちを素直に表している児童が多かった。では、家族などの身近な方々はどうだろうか、と考えることで、家族は自分を支えるだけでなく、社会に生きている人たちを支えていると気付くことができた。また、互いに助け合いながら、生活をしていると気付く児童もいた。

5	1	分かり合うために 相互理解、寛容 光村図書 「ブランコ乗りとピエロ」	「サーカスは大成功だったのか。」というテーマを投げかけた。物語を２つに分けて、前半部分では、観客には成功に見えるが、団員の中では失敗であるという場面を考えさせ、成功と言えるのかという葛藤を感じさせた。後半部分では、考え方の違う２人が歩み寄る場面を考えさせることで、相互理解を高める工夫をした。	成功か、失敗か、どちらでもないかをグループで話し合わせた場面では、様々な意見が行き交い、活発な交流になった。外部、内部という視点で考える子どもたちも現れ、全体で共有した。後半部分では、このまま相互理解できずにサーカスを続けたらどうなるかを考えさせることで、未然防止の考えも引き出すことができた。
	2	分かり合うために 相互理解、寛容 光村図書 「ブランコ乗りとピエロ」	始めに「違うもの同士が関わり合って過ごすには」をテーマとして提示し、登場人物の背景を先に確認した。その後、物語を２つに分けて登場人物の心情の変化を見ることで、相互理解について考えさせる工夫をした。	班ごとの話し合いの場面では、サーカスは成功だったといえるのかについて、それぞれの立場を考えながら、多くの意見が交流できた。自分について振り返る場面では、考えが違うもの同士が関わって過ごすにはどんなことが大切なのかについて、一人一人が考えを深めることができた。
	3	分かり合うために 相互理解、寛容 光村図書 「ブランコ乗りとピエロ」	物語を２つに分けて、前半の内容を先に配布した。前半は、ブランコ乗りの行いに、周りが怒っていることを全体で押さえ、その後、みんなで宴をしている結末の写真を掲示し、この間にどのようなやり取りがあったのかを班で話し合わせる工夫をした。	ハッピーエンドの結末になれたのは、その間にどういうやり取りがあったのかをグループで考えさせた。さまざまな意見が出る中で、班ごとで意見をまとめさせたので、友達の意見に納得した児童も多く見られた。

6	1	友達とは 友情、信頼 光村図書「コスモスの花」	教科書にある最後の文を見せずに、主人公が何と言ったかを想像させ、主人公の友達に対する嫉妬の気持ちと信頼する気持ちの両方に、より迫れるようにした。２つの相反する気持ちに触れ、最後には、自分にとって本当の友達とはどんな存在なのかを考えられるようにした。	自分の体験などを振り返りながら、友達に対して多くは信頼をしているが、うらやましく思う気持ちもやはりあるということを共有できた。最後には、そのうらやましく思う部分を認め合い、信頼できるのが本当の友達であると考えられた児童が多かった。
	2	支えてくれた人々に 感謝 光村図書 「『ありがとう』の気持ちを伝える」	導入で「ありがとう」という言葉を普段どれだけ使っているか考えさせ、２つの事例作文から「当たり前だと思っている日々の感謝を伝えること」の大切さを気付かせることをねらいとした。最後に感謝の気持ちを伝えたい相手を想像させ、実生活に結び付けるようにした。	感謝の思いを伝えることは気恥ずかしい、という思いは皆共通でもっていた。授業を通して、それでも大切な人には実際に伝えた方が良い、と感じた児童が多かった。

１年１組授業時様子

２年２組授業時様子

５年２組授業時様子